

愛媛新聞（2026年3月25日）に掲載されました。



パプアニューギニアからの
帰国を報告する松山赤十字
病院の看護師木本涼さん
＝24日夕、松山市文京町

パプア経験 日々の看護に

松山赤十字の
木本さん帰国 専門分野超え支援

日本赤十字社の国際救援
・開発協力事業で昨年10月
から約半年間、南太平洋の
パプアニューギニアで保健
衛生業務の支援などに取り
組んだ松山赤十字病院（松
山市文京町）の看護師木本
涼さん（31）が24日、同病院
に戻り帰国を報告した。

木本さんは事業管理業務
補佐として22日まで同国に
派遣された。保健衛生分野
での年間計画づくりやIT
スキル指導などで、現地の
スタッフをサポート。専門
分野だけでなく、表計算ソ
フトの基礎的な使い方な
ど、業務の選択の幅を広げ
られるような「足し算の支
援」を心がけた。

気候変動対策の事業モニ

タリングで訪れた同国ブー
ゲンビル自治州のソハノ島
は、海面上昇の影響により
高潮で居住エリアまで海水
が流入。気候変動が暮らし
に直結しているのを目の当
たりにしたという。

24日は病院スタッフらが
横断幕を掲げて出迎え、西
崎隆院長が「現地の人のた
めに保健衛生や予防活動
で大きな貢献をした」とね
ぎらった。木本さんは「日
本からの寄付などで活動
が支えられていることを実
感した」と感謝。「相手の
立場や地域の状況を理解
する大切さを学んだ。経験
を日々の看護に生かした
い」と抱負を語った。

（杉本賢司）

掲載許可番号：d20260327-02